

1 2022年度住民意識調査結果および概要

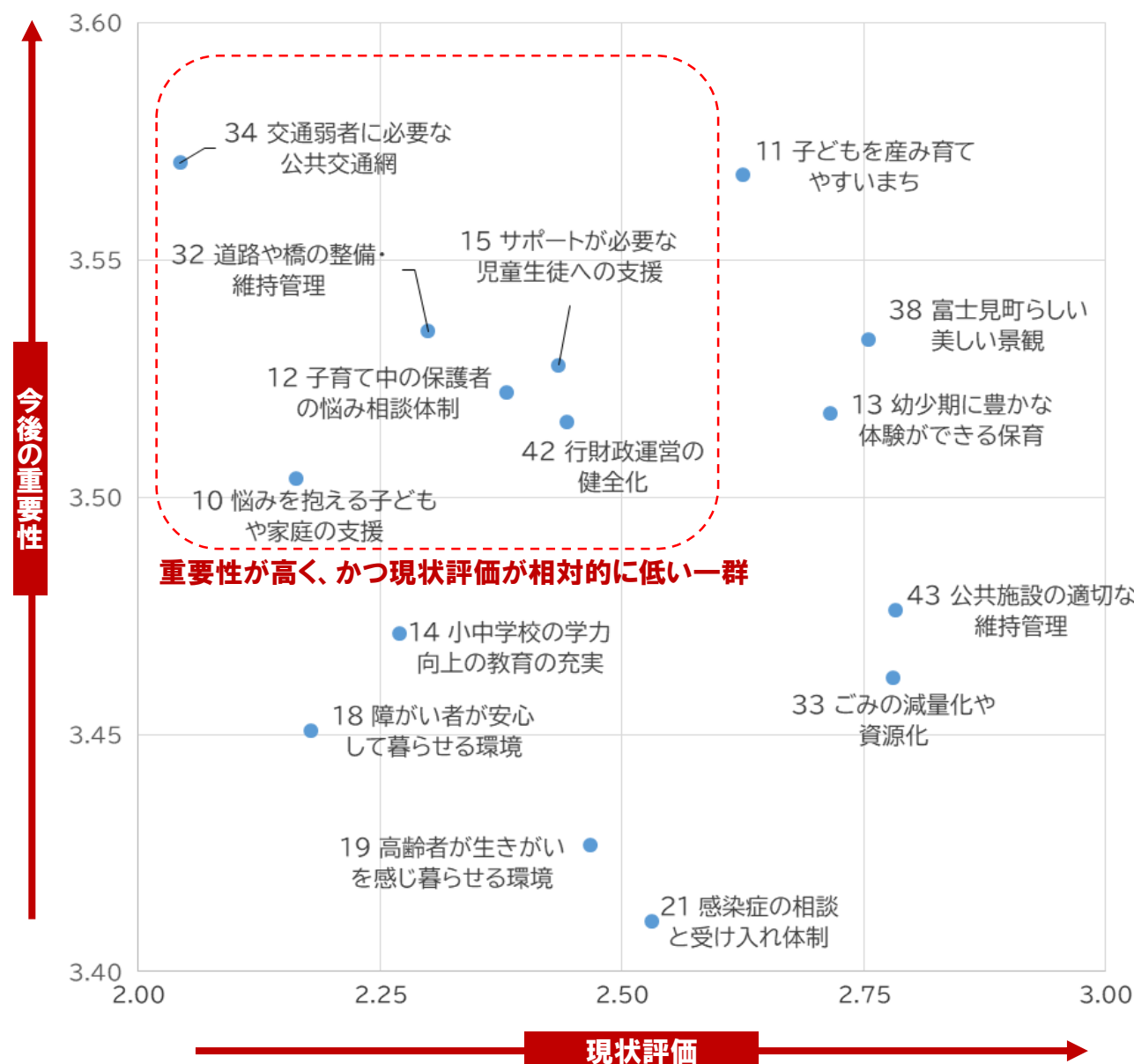
①町の現状評価と、町として今後進めていく重要性

それぞれ「そう思う」=4、「ややそう思う」=3、「あまりそう思わない」=2、「そう思わない」=1としてポイント化し平均値を算出。
また、評価することができず「わからない」を選んだ回答の割合を、それぞれ青いグラフで示した。

分野	具体的な状況	現状の評価			今後進めていく重要性	
		H29実績	R4	わからない割合	R4	わからない割合
人口	1 移住者が地域に定着している	2.56	2.81	14.8	3.24	7.5
	2 町出身者が地元で定着し、外に出て帰ってくる地域である		2.01	14.8	3.25	9.2
	3 富士見町の知名度や認知度が高くなっている		2.38	9.6	3.24	6.5
産業	4 農業が盛んになってきている	2.01	2.10	12.9	3.16	7.5
	5 里山など身近な森林の整備が実施されている		2.04	12.8	3.30	7.3
	6 知人や友人にすすめたい観光地が町内にある	2.46	2.50	4.2	3.25	4.7
	7 製造業が盛んな地域である	1.92	2.03	10.8	3.01	10.3
	8 町内の商店街に賑わいが生まれつつある	1.51	1.95	3.9	3.24	5.2
	9 就業しやすい体制が整っている	1.61	1.68	18.5	3.36	7.6
子育て教育	10 悩みを抱える子どもや家庭を支援する環境が整っている	2.10	2.16	44.9	3.50	19.2
	11 子どもを産み育てやすい地域である	2.59	2.62	21.0	3.57	10.8
	12 子育て中の保護者が悩みを相談できる体制が整っている		2.38	41.5	3.52	15.8
	13 幼少期に豊かな体験ができる保育体制が整っている	2.70	2.71	29.0	3.52	13.0
	14 小中学校において学力を向上する教育が充実している	2.27	2.27	44.5	3.47	17.6
	15 サポートが必要な児童生徒への支援体制が充実している	2.44	2.43	49.6	3.53	19.5
健康福祉	16 健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	2.70	2.72	14.9	3.40	6.3
	17 ご近所において、お互いに支え合える人間関係を築けている	2.59	2.59	6.4	3.20	6.5
	18 障がい者が安心して生活していける環境が整っている	2.17	2.18	31.5	3.45	11.2
	19 高齢者が生きがいを感じ、暮らしていける環境が整っている	2.44	2.47	20.2	3.43	6.3
	20 暮らしの困りごとや気がかりなことを相談できる体制が整っている		2.26	26.4	3.39	9.3
	21 感染症の相談と感染時の受け入れ体制が整っている		2.53	29.3	3.41	11.4
住民活動生涯学習	22 町政に関する情報を入手する環境が整っている		2.44	18.3	3.36	8.8
	23 区・集落組合が機能し、自立的な地域づくりが行われている	2.68	2.62	18.0	3.18	11.8
	24 区・集落組合等のコミュニティに参加しやすい地域である	2.52	2.48	12.8	3.14	10.2
	25 住民・教育機関・企業等が連携し、自然保護に取り組んでいる	2.26	2.26	30.4	3.32	11.9
	26 姉妹町・友好都市との交流が盛んにおこなわれている	2.47	2.29	34.2	3.07	16.6
	27 様々な学びや趣味を気軽に行える施設が整っている		2.21	16.3	3.30	8.1
	28 互いの個性や立場を認め合える地域である		2.15	26.2	3.23	14.2
	29 公民館などで学びの機会が提供され、多くの人に利用されている	2.44	2.35	20.5	3.21	10.4
	30 スポーツやレクリエーションを楽しめる環境が整っている	2.48	2.47	15.2	3.27	8.6
	31 地域の伝統や文化財・文化遺産の保存・活用が行われている	2.54	2.65	24.2	3.30	12.5
環境都市基盤	32 道路や橋が整備され、適切に維持管理されている	2.47	2.30	5.6	3.54	2.7
	33 ごみの減量化や資源化が進んでいる	2.87	2.78	11.9	3.46	5.0
	34 交通弱者に必要な公共交通網が整備されている	2.04	2.04	11.2	3.57	5.8
	35 地域の特性を活かした適切な土地利用がされている	1.92	1.98	27.5	3.39	12.9
	36 上下水道の整備が行き届いている	3.06	3.04	10.8	3.40	6.7
	37 地域における地球温暖化防止の取り組みが進んでいる		1.95	33.6	3.39	13.5
	38 富士見町らしい、美しい景観が保たれている		2.76	8.7	3.53	5.0
	安心安全	39 防災訓練が十分に行われている	2.67	2.65	14.8	3.36
40 地域の消防団による活動が活発におこなわれている		3.19	3.03	21.8	3.17	12.7
41 地域による防犯対策が行われている		2.42	2.30	24.1	3.38	9.7
行財政	42 行財政運営の健全化が図られている	2.46	2.44	44.6	3.52	17.6
	43 公共施設が適切に維持・管理されている	2.74	2.78	21.8	3.48	10.8
他	44 ICTの導入によって暮らしや仕事の利便性が高まっている		2.14	42.2	3.33	26.2

現状評価×今後の重要性

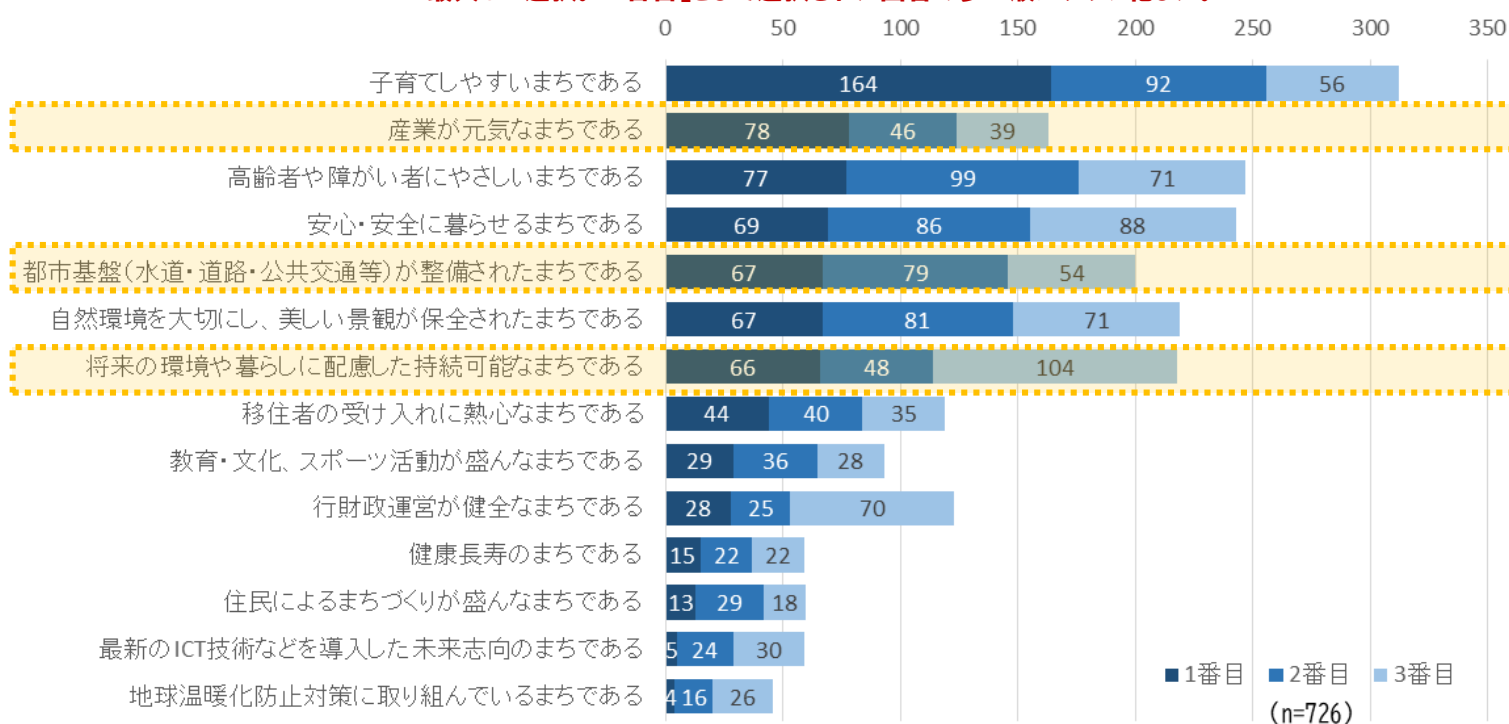
(今後進めていく重要性上位15について、現状評価と重要性の平均ポイントを2軸で配置した)



- 町政の主要施策を44に分類し、現状評価と今後の重要性を4段階で評価したところ、現状では「移住者の定着」「ごみの減量・資源化」「上下水道整備」「消防団活動」「公共施設の管理」の評価が高い。
- 今後の重要性が高い施策としては、子育て、都市基盤、景観・環境、福祉などの分野があげられている。重要性が高く、かつ現状評価が比較的低い施策は、「公共交通整備」「道路管理」「サポートが必要な児童生徒への支援」「悩みを抱える子ども・家庭の支援」等となっており、重点的に対応を検討することが求められている。

②町として特に力を入れるべき政策

14の政策(実現すべきまちの姿)から、力を入れるべきものを1番目から順に最大3つ選択。「1番目」として選択された回答の多い順にグラフ化した。



<現在の富士見町の状況>

現在の富士見町の状況についての評価を、「そう思う」=4、「ややそう思う」=3、「あまりそう思わない」=2、「そう思わない」=1としてポイント化し平均値を算出。また、「わからない」を選んだ回答の割合を別途示した。

政策	平均ポイント	わからない割合
子育てしやすいまちである	2.82	19.12
産業が元気なまちである	2.22	12.55
高齢者や障がい者にやさしいまちである	2.63	18.05
安心・安全に暮らせるまちである	3.06	4.62
都市基盤(水道・道路・公共交通等)が整備されたまちである	2.42	7.75
自然環境を大切にし、美しい景観が保全されたまちである	2.82	6.38
将来の環境や暮らしに配慮した持続可能なまちである	2.49	18.34
移住者の受け入れに熱心なまちである	3.09	8.21
教育・文化、スポーツ活動が盛んなまちである	2.46	13.22
行財政運営が健全なまちである	2.55	35.01
健康長寿のまちである	3.06	13.02
住民によるまちづくりが盛んなまちである	2.37	20.20
最新のICT技術などを導入した未来志向のまちである	2.11	34.09
地球温暖化防止対策に取り組んでいるまちである	2.17	29.56

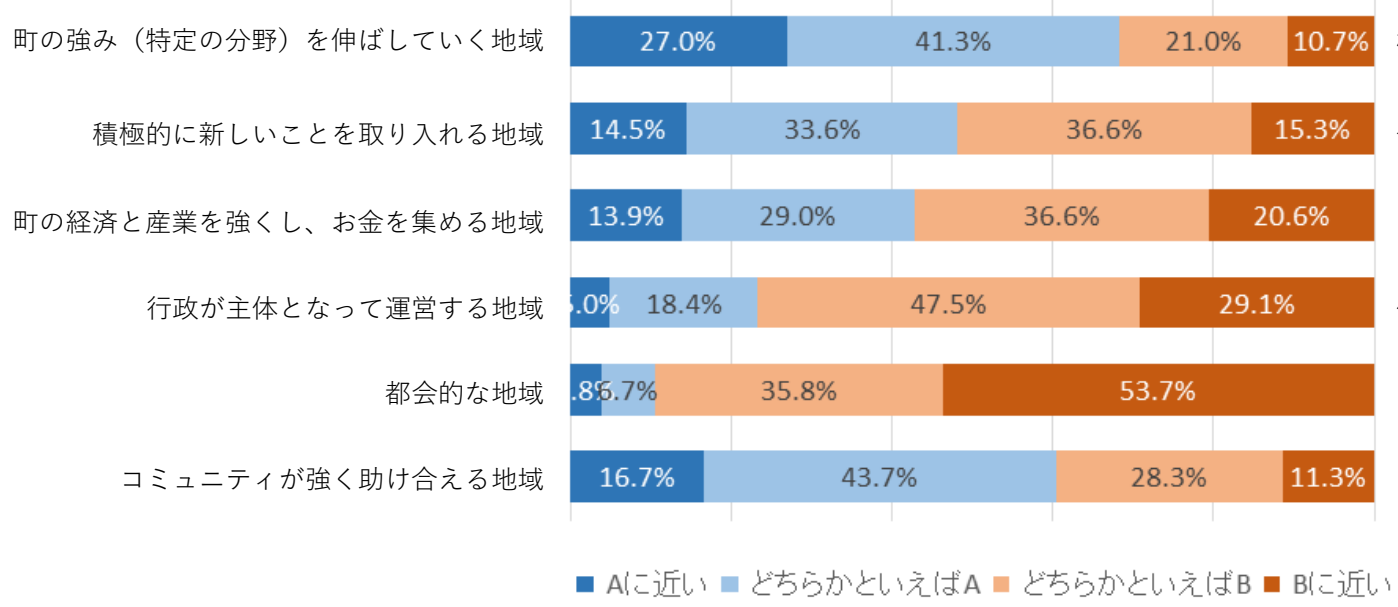
力を入れるべき政策として「1番目」の回答が多く、一方で現状評価の平均ポイントが比較的少ないもの

- 14の政策から力を入れるべきものをきいたところ、「1番目に重要」という意見が最も多かったのは「子育てがしやすいまち」であった。
- さらに、力を入れるべきという意見が多く、かつ現状の評価の低い政策として、「産業が元気なまち」「都市基盤が整備されたまち」「環境や暮らしに配慮した持続可能なまち」がある。

③これから富士見町が目指すべき方向性

A

0% 20% 40% 60% 80% 100%

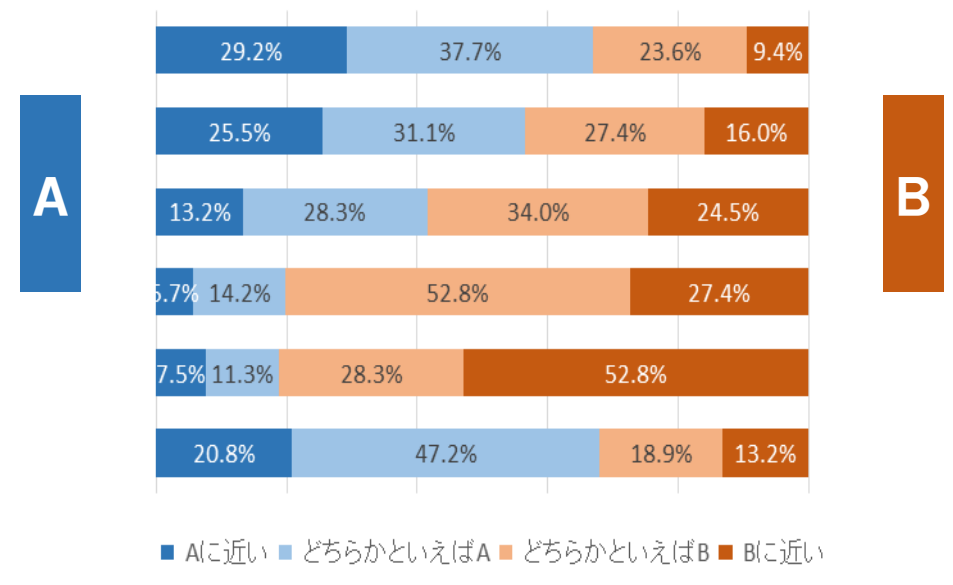


B

様々な分野に均等に力をいれていく地域
今の良さを守っていく地域
お金で買えない豊かさを大切にする地域
住民と行政が協働で運営する地域
自然豊かな地域
お互いに干渉せず自由な地域

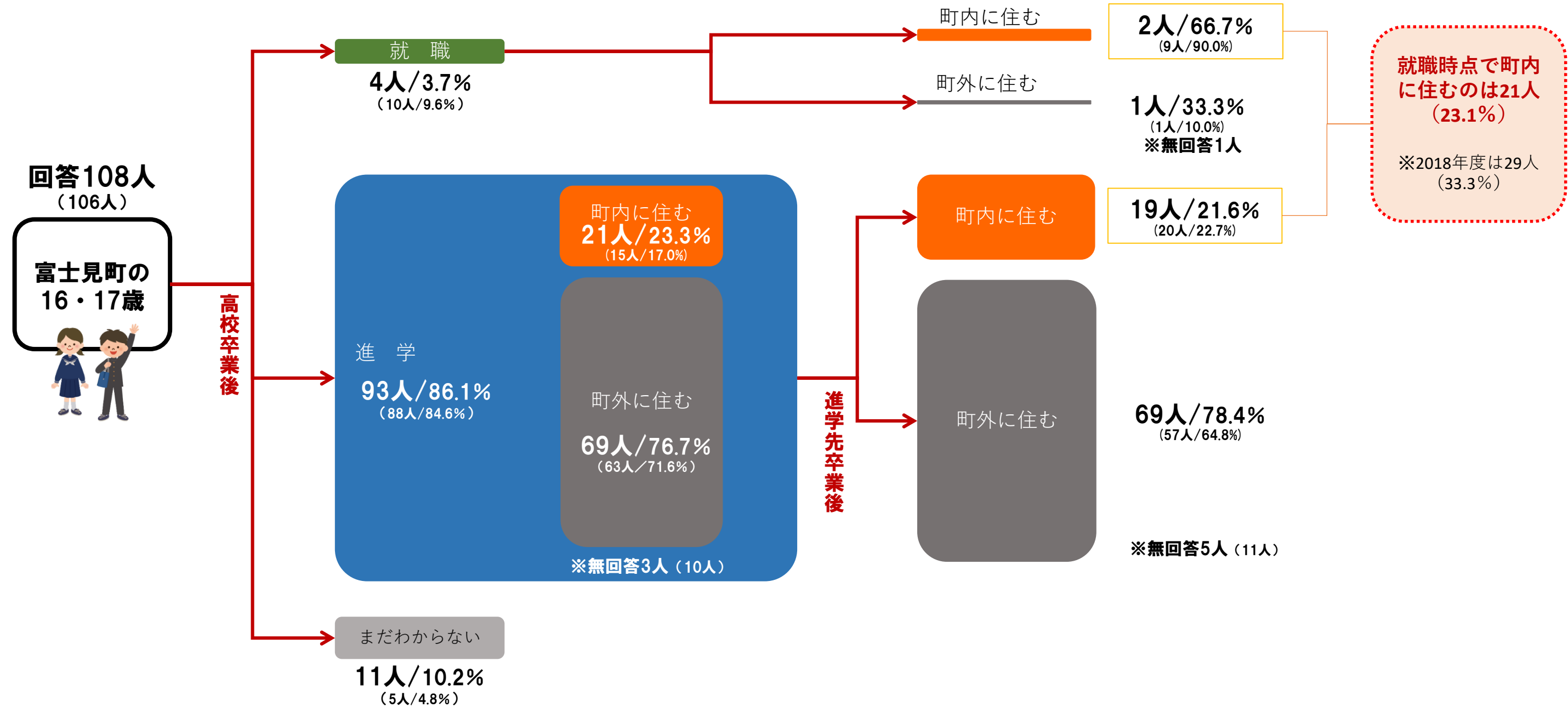
<若者(16~17歳)調査の回答>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 町の方向性をA Bふたつのいずれかを選ぶ形で聞いたところ、「様々な分野で均等に」よりは「特定の分野を伸ばす」方向が、「都会的な地域」よりは「自然豊かな地域」を目指す方向が、比較的支持されている。
- また、「積極的に新しいことを取り入れる」か「今の良さを守るか」は、成人調査では拮抗しているが、若者調査では「積極的に新しいことを取り入れる」にやや傾いている。「コミュニティが強く助け合える」か「互いに干渉せず自由」かでは、成人調査でもやや「コミュニティが強く助け合える」に傾いており、この傾向は若者でより強い。

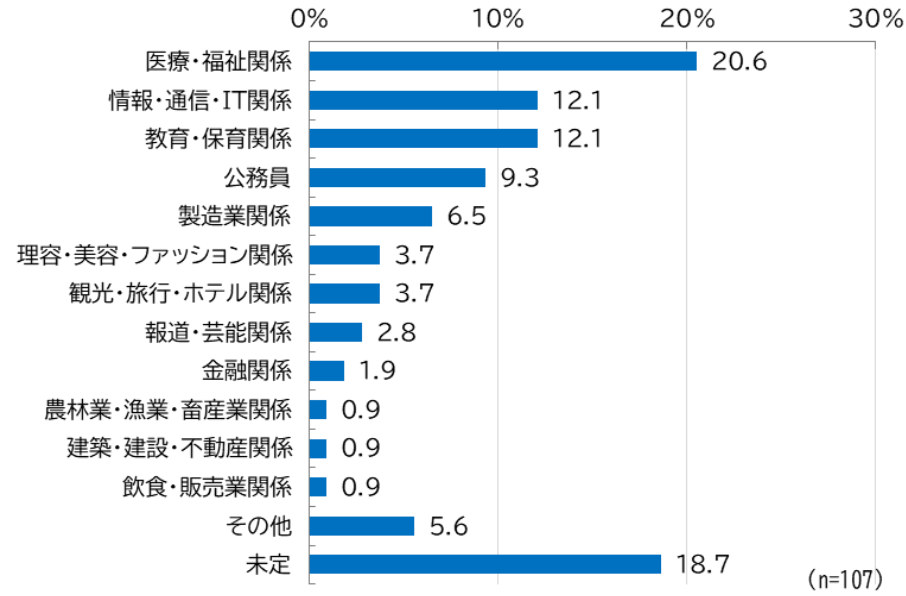
① 高校卒業後の進路と居住地



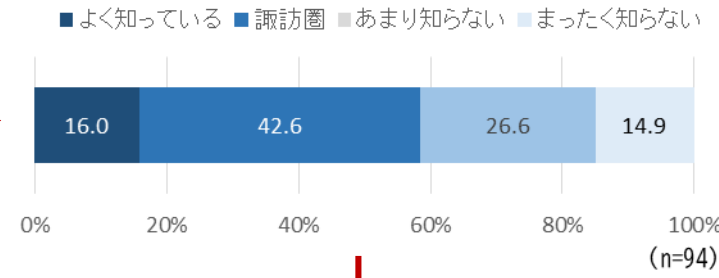
- 16・17歳の若者のうち、高校卒業後の予定が「就職」なのは3.7%、「進学」なのは86.1%となっている（「わからない」が10.2%）。
- 高校卒業後に「就職」する者のうち、居住地を回答したのは3人で、うち2人（66.7%）が町内に、1人（33.3%）が町外に住むとしている。また「進学」先卒業後の居住地を回答したのは88人で、うち19人（21.6%）が町内に、69人（78.4%）が町外に住むとしている。就職時点で町内に住む者の合計は21人で、居住地を回答した91人のうち23.1%となっている。
- 2018年度の調査結果と比較すると、高校卒業後に「就職」を選ぶ割合が9.6%から3.7%に減少している。高校卒業後に「就職」する場合は町内に住むケースが多く（2018年調査で90.0%、2022年調査で66.7%）、この割合の減少が、2018年に比べて2022年は就職時点で町内に住む者の割合が33.3%から23.1%に低下していることにつながっている。

② 就職先についての意向

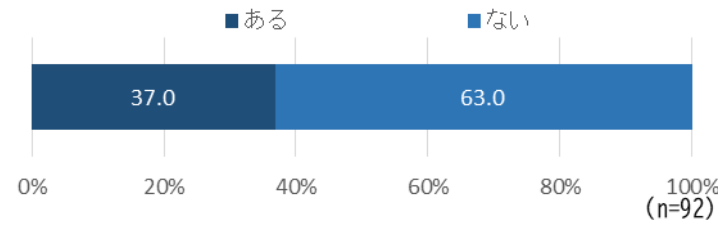
将来就きたい職業



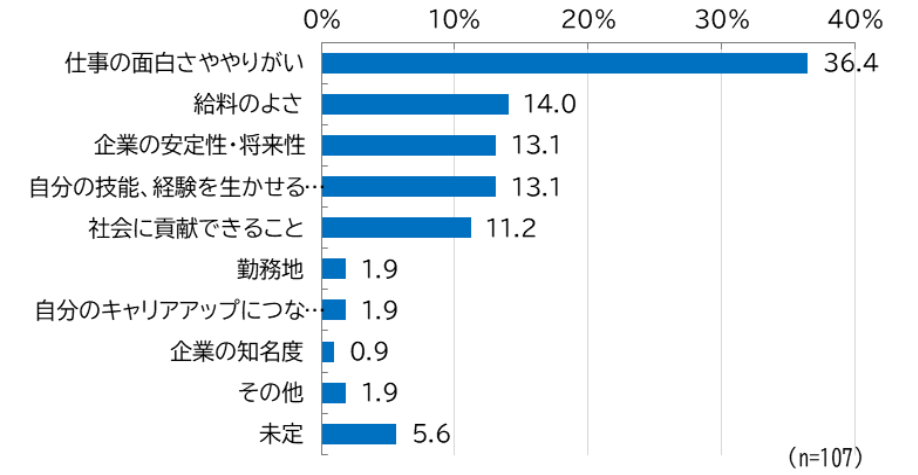
富士見町とその近郊でその職場を知っているか



富士見町とその近郊でその職場を調べたことはあるか



仕事選びで最も重視すること

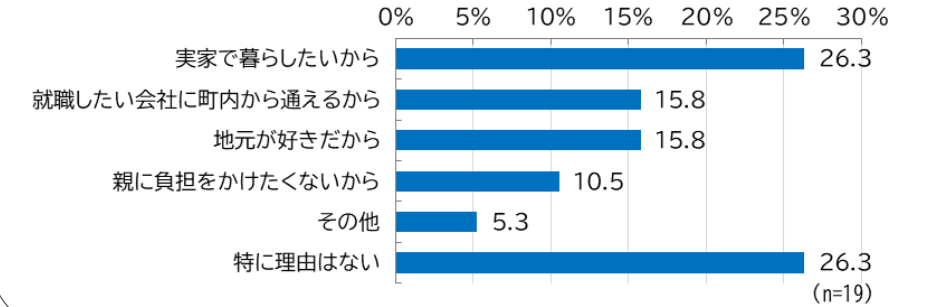


- 就きたい職業では「医療・福祉」「教育・保育」「公務員」「製造業」など町内に職場があるものも多い一方、「IT関係」「ファッション」「報道」など町内で見つけにくいものへの意向も一定数みられる。
- 仕事選びで重視することは「面白さややりがい」が36.4%と最も多い。町内の仕事の面白さなどを伝えることで、町内に就職先を見つけるケースを増やすこと等が検討できる。

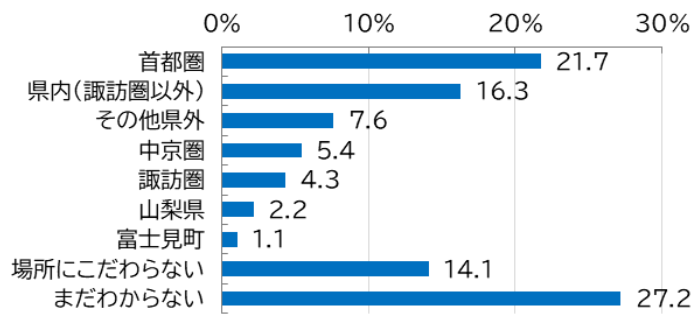
③ 進学・就職に伴う居住地についての意向



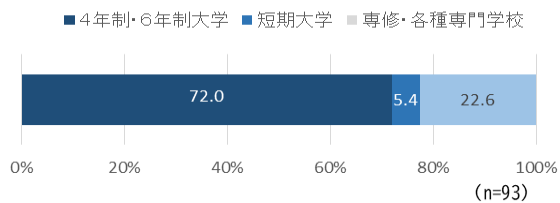
進学先卒業後に富士見町に住む理由



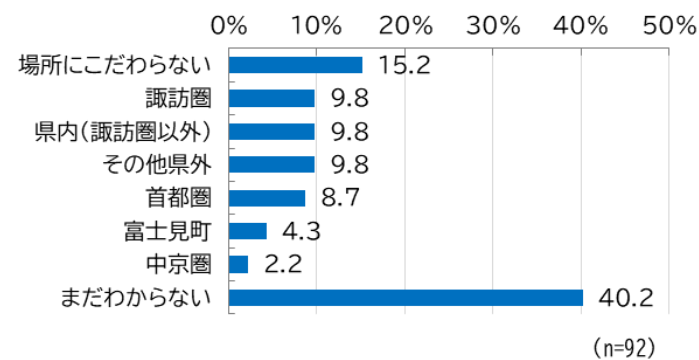
進学先の地域



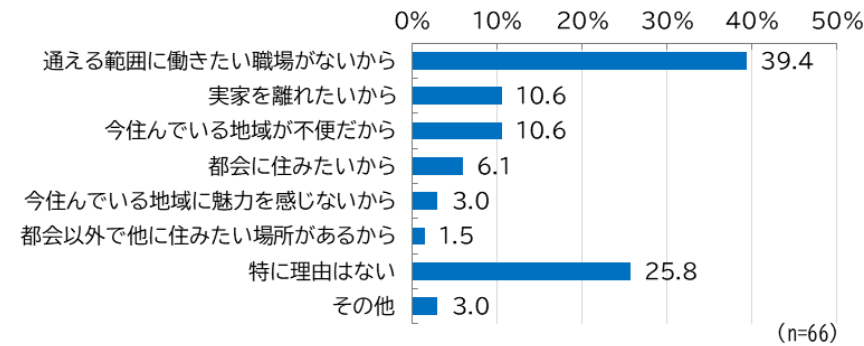
<進学先>



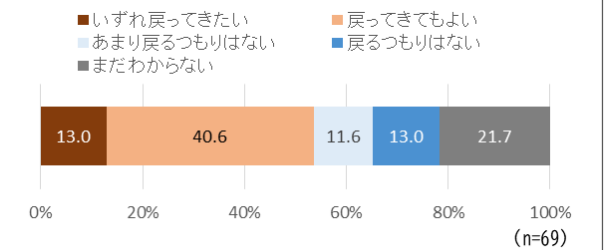
進学後の就職先の地域



進学先卒業後に富士見町の外に住む理由



<富士見町に戻るつもりはあるか>



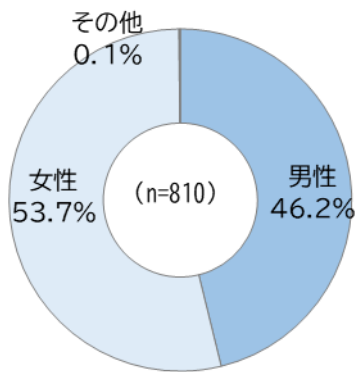
【参考】住民意識調査 実施概要

- 実施期間……2022年6月21日～7月11日（7月20日到着分まで集計）
- 実施方法……郵送配布、郵送またはWebによる回答
- 対象……成人／18歳以上（無作為抽出）
若者／2022年3月時点で16～17歳（全数）
- 回収状況……右表のとおり

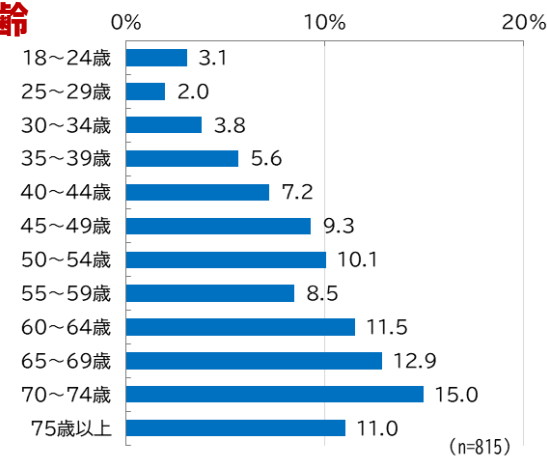
	配布数	回収数			回収率
		紙	WEB	計	
成人アンケート	1,500	634	181	815	54.3%
若者アンケート	264	63	45	108	40.9%

成人アンケート回答概要

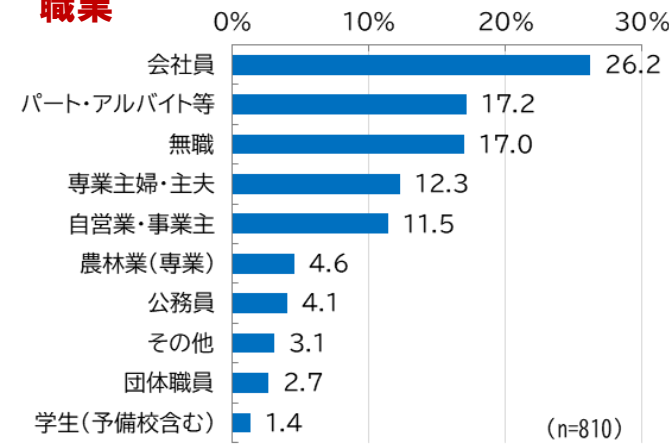
性別



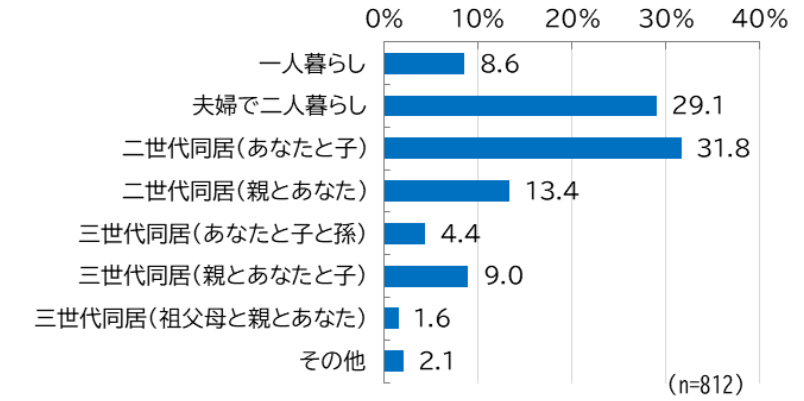
年齢



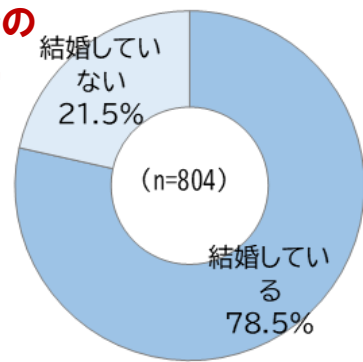
職業



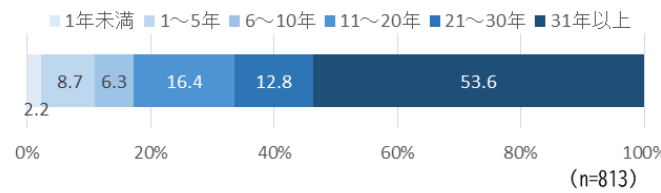
同居家族



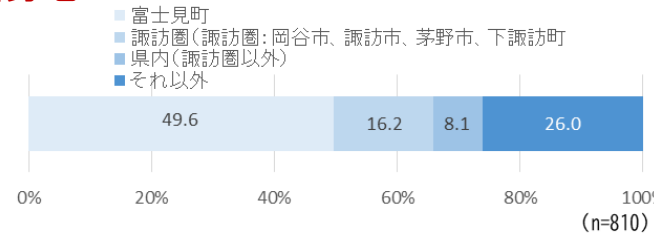
結婚の状況



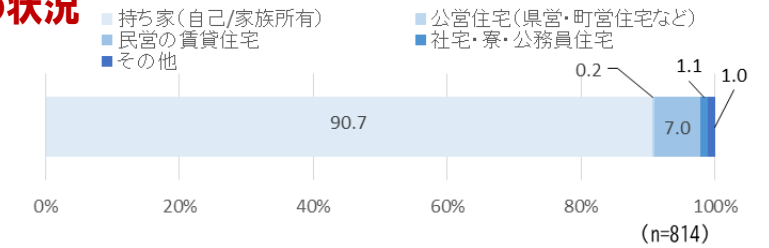
居住年数



出身地

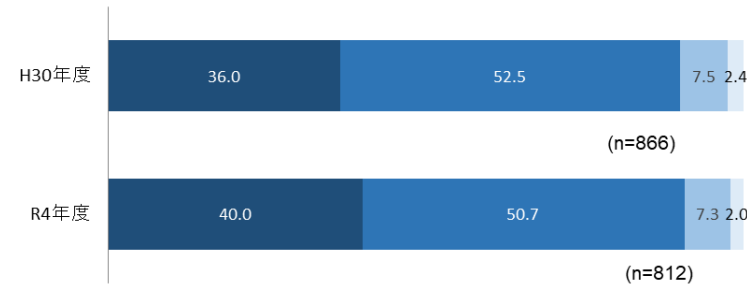


住まいの状況



町に対する愛着

- とても愛着を感じている
- どちらかといえば愛着を感じている
- どちらかといえば愛着を感じていない
- 愛着を感じていない



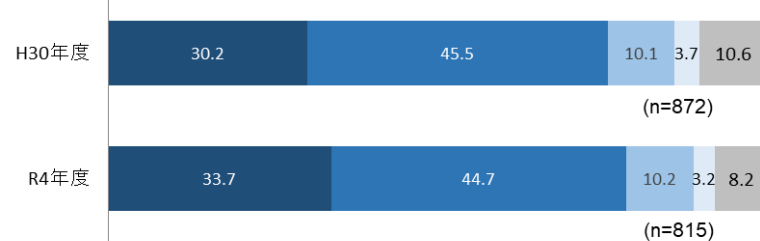
転出を考えたことがあるか

- 転出を考えたことがある
- 転出を考えたことはない

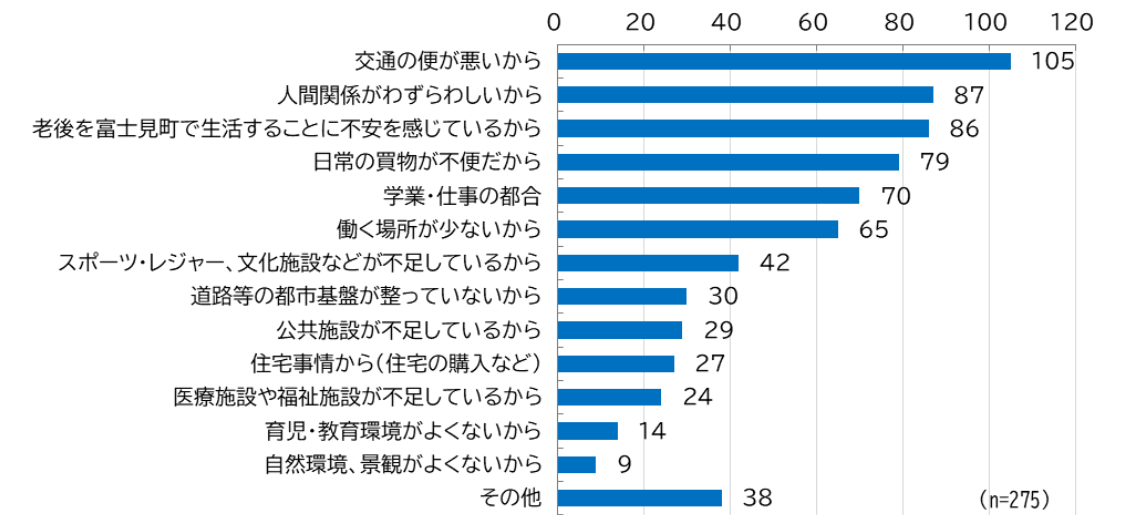


町の住みやすさ

- 住みやすい
- どちらかといえば住みやすい
- どちらかといえば住みにくい
- 住みにくい
- どちらともいえない



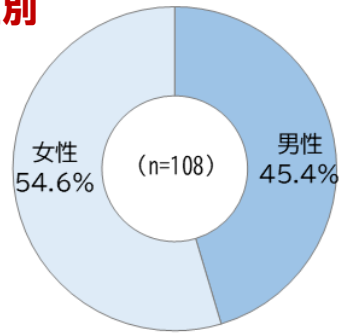
転出したいと思う理由(複数回答)



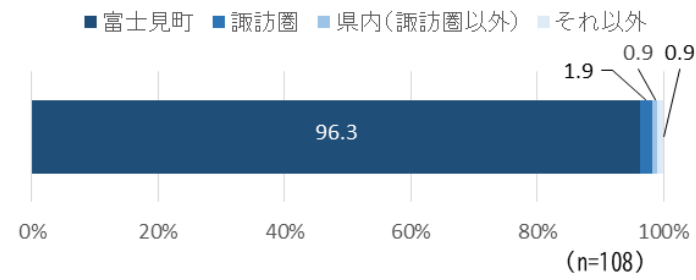
【参考】住民意識調査 実施概要

若者アンケート回答概要

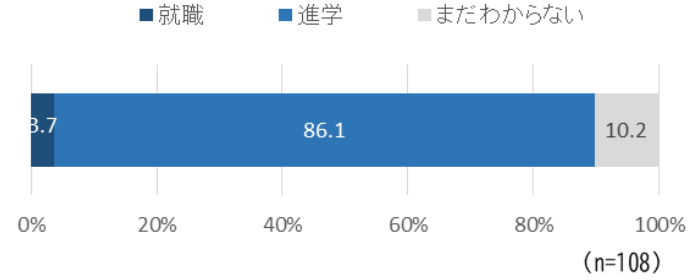
性別



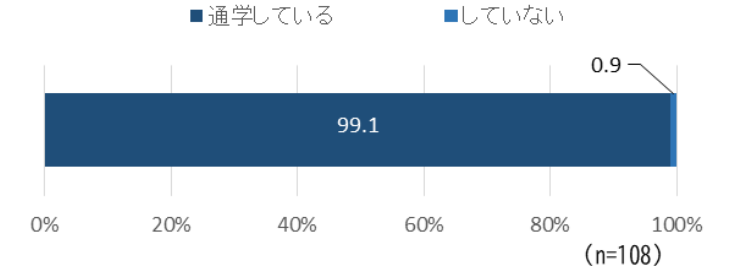
出身地



進路



通学状況



家族に富士見町に住み続けることをすすめられたことはあるか

